

# 『舊韓末韓半島地形圖』に未掲載の地形図について

岡田（谷屋）郷子（大阪大学卒業生）

韓国で出版されている『舊韓末韓半島地形圖』は、日本軍が韓国併合以前に作製した5万分の1地形図をまとめたものである。この地形図は、南(1996)では「軍用秘図」と呼ばれ、清水(1986)を初めとする日本の研究においては「略図」と呼ばれており、3回刊行された朝鮮半島の5万分の1の地形図の中で、第1次のものにあたる(図1)。

第1次地形図は、測図年を削って刊行された(清水1986:17)。地形図の存在は、独立国であった朝鮮国を、日本が違法に測量をしていたという動かぬ証拠となってしまうためである。また、国境河川である豆満江と鴨緑江の沿岸地帯や、元山や釜山などの軍港付近の地形図など、戦略上重要であった地域は未刊行であった。

しかし、地理調査所(現在の国土地理院の前身)が1958(昭和33)年に調製した『国外地図目録 第1巻 旧日本領』によって、大部分の地形図の測図年が判明し、国境地帯や軍港付近の地形図も同時期に作製されていたことが分かる。

図2は、『国外地図目録』をもとに、韓国併合以前に

作製された地形図の測図年を表示したものである。これまでは、刊行時に測図年を削除し忘れたと考えられる「三嘉」図幅(明治32年測図)以外は、図式から測図年を推測するしかなかったが、『国外地図目録』によって大部分の測図年が判明した。また、『外邦測量沿革史草稿初編 自明治二十八年至同三十九年断片記事』(参謀本部北支那方面軍司令部 1979)にある記録から、第1次地形図の測量を担当した機関も判明する。まず、明治28~29(1895~1896)年の作製地域は第一次臨時測図部が、明治31~37(1898~1904)年の作製地域は陸地測量部が、明治38~39(1905~1906)年の作製地域は第二次臨時測図部が担当したと考えられる。

### 【文献】

- 参謀本部北支那方面軍 1979. 『外邦測量沿革史草稿初編 自明治二十八年至同三十九年断片記事』ユニコンエンタプライズ
- 清水靖夫 1986. 『日本統治機関作製にかかる朝鮮半島地形図の概要—「一万分一朝鮮地形図集成」解題—』柏書房.
- 南 榮佑 1996. 『舊韓末韓半島地形圖 解題』(韓国語)成地文化社.

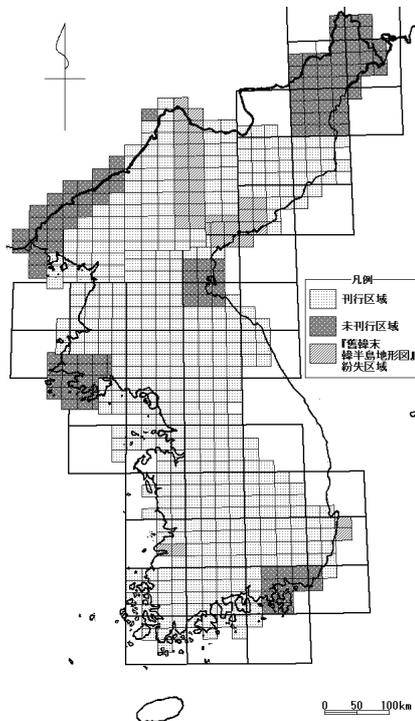


図1 第1次地形図一覽図

(『舊韓末韓半島地形圖』、『国外地図目録第1巻旧日本領』による)

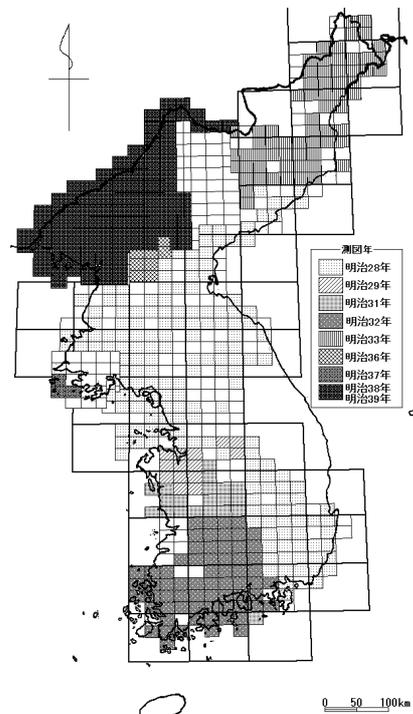


図2 韓国併合以前に作製された5万分1地形図の測図年分布図

(国土地理院蔵『国外地図目録 第1巻 旧日本領』による)